

日本臨床カンナビノイド学会は厚生労働副大臣に大麻由来医薬品の早期薬事承認・保険収載を要望しました

日本臨床カンナビノイド学会の太組一朗理事長（聖マリアンナ医科大学脳神経外科学准教授）、新垣実前理事長らは令和3年12月9日佐藤英道厚生労働副大臣に対して、カンナビノイド医薬品の活用を含むてんかん医療の充実を求める保険改正要望書を手交しました。

内容としては現在、医療アクセスが十分ではない知的障がい者への診療加算の充実、及び聖マリアンナ医科大学などのてんかん拠点病院を中心とし、今後の実施が計画されている大麻由来医薬品（エピディオレックス®英国GW製薬）の臨床試験終了後の速やかな薬事承認・保険収載を要望するものです。

佐藤英道厚生労働副大臣からは、大麻由来医薬品については製薬企業への開発要請を含め、前向きに取り組んでいく旨の答申をいただきました。

本要望は2021年10月の役員交代により、新たに理事長に就任した太組一朗先生が、主任研究者として行った厚生労働科学研究（[てんかんにおけるカンナビノイド\(大麻由来成分\)由来医薬品の治験に向けた課題把握及び今後の方策に向けた研究](#)）の研究成果が反映されたものであり、当学会が保険改正要望書を提出するのは、今回が初めてのこととなります。



写真左から

篠原久治GW製薬社長、新垣実医師（日本臨床カンナビノイド学会理事・初代理事長）、太組
一朗医師（日本臨床カンナビノイド学会理事）、佐藤英道厚生労働副大臣、秋野公造参議
院議員、正高佑志医師（日本臨床カンナビノイド学会理事）

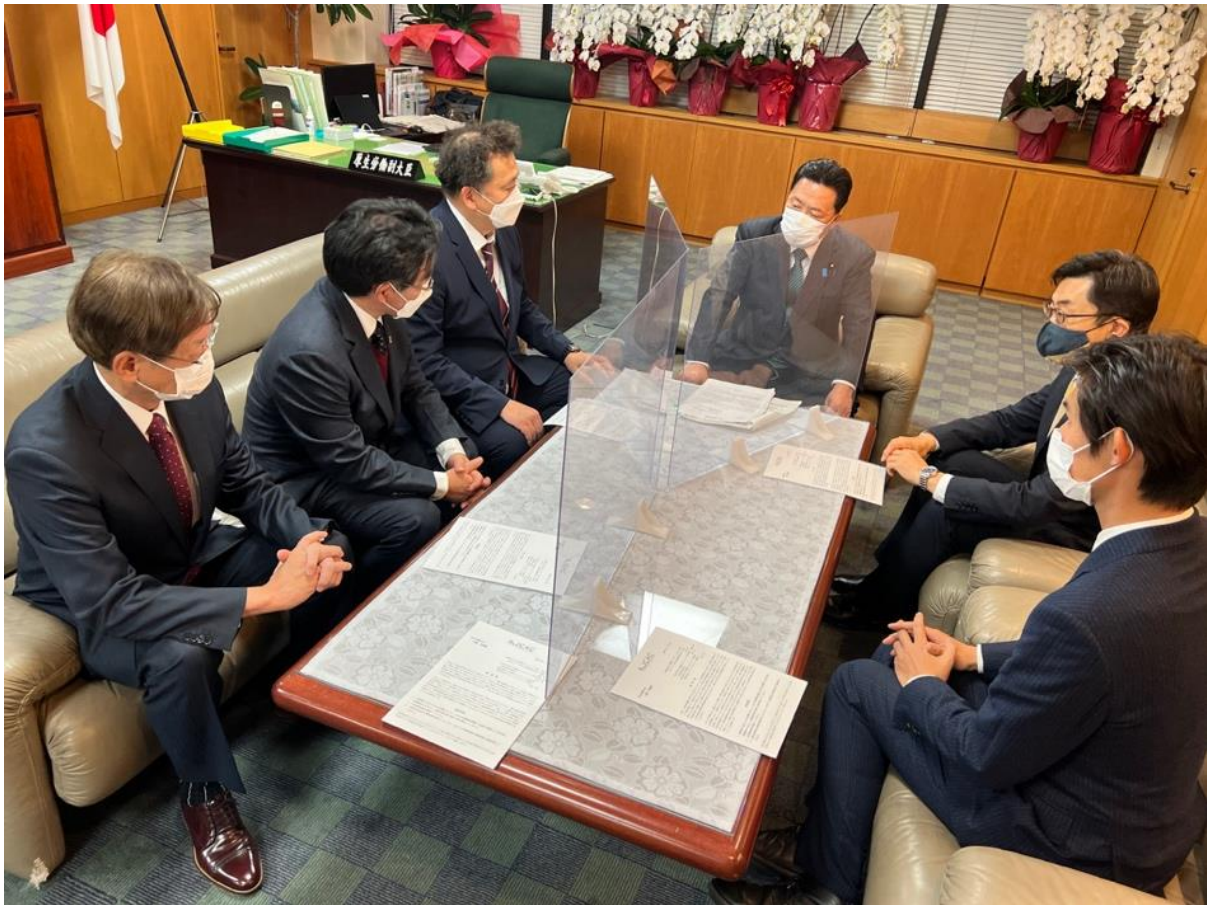


写真
厚生労働副大臣室にて